

不登校生徒支援の在り方に関する実証的考察

— 「学習する組織」論を根幹においた「はるぶみシステム」の開発 —

教育実践高度化専攻 学校マネジメントコース

岡島 正和

不登校生徒の支援には、チーム支援はもとより、教職員一人ひとりが力を発揮する必要があると考えた。そこで、本研究では中学校における不登校生徒に有効的な支援システムの開発を目的とした。本システムは、「段階別支援の設定」、「『学習する組織』論を根幹におく」、「担当による不登校支援会議のファシリテート」といった手立てを有する。

本研究の成果としては、以下の三点が挙げられる。

- ・ 不登校生徒の支援システムは、担任の自信をもった支援を可能にする。
- ・ 『学習する組織』論を根幹においた不登校生徒の支援システムでは、5つのディシプリンのうち、サポーターの「メンタル・モデル」の克服と「共有ビジョン」の構築に重点化すべきである。
- ・ 不登校生徒の支援システムにおいて、サポーターの主体性や当事者意識を高めるには、担当者によるファシリテートが必要不可欠である。